

平成27年度

入学試験問題

学校法人 明星学園

浦和学院専門学校

看護学科

国語

(一般入試 II期)

[注意事項] (試験が始まる前に読んでおくこと。)

- 1 受験票は机の上に表示された受験番号の横におくこと。
- 2 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
- 3 解答用紙に受験番号、氏名を正確に記入すること。
- 4 下敷の使用は禁止する。
- 5 試験終了時に解答用紙と問題用紙は別々に回収する。
- 6 試験終了後は試験監督の指示に従って行動すること。

※ なお、試験中に気分が悪くなった場合は試験監督に申し出ること。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

映画とテレビが決定的に違うのは暗闇の有る無しだろう。映写機から出た光がスクリーン上に投射され、そこに生起する映像の戯れを観客の瞳が捉える。簡単に言ってしまうとそれが映画の仕組みだが、わたしたちの目に映るのが反射光であるかぎりにおいて、映画館の暗闇は、作品享受の体験が成立するための①絶対的な必要条件となる。それに対して、ブラウン管の場合であれ液晶やプラズマの場合であれ、テレビ画面からは直接に光が発しており、それがそのまま瞳に届いてくるので、とりたてて部屋を暗くするには及ばない。

食事をしたり家事をしたりの際片手間にテレビをちらちら見つけられることができるのは周囲が明るいままだからであり、逆に言えば、テレビ画面で起きていることに②一心不乱に集中する気になかなかなれず、合間合間にいつか気が弛んで、家族や友人と感想を喋り合ったりしてしまうのも③同じ理由による。映画を本当に身を入れて見るには、DVDソフトを借りてきて手近に用を足すのではなく、やはり面倒なようでも映画館まで足を運ぶべきなのだ。

※、映画館の暗闇というものに一種特別な思い入れがあるのは、わたしの世代からいまでの④特殊事情かもしれない。物ごころついた頃テレビはすでにあつたけれど（ただし最初のうちは白黒テレビである）、昭和三十年代、四十年代のわたしの子供時代、映画という絢爛豪華な映像と音響の饗宴に浸るためには当然映画館に赴かなければならなかった。そもそも、その頃の東京には街のあちこちに大小の映画館が沢山あつたのである。現に下町のわたしの生家の真裏にも日本映画の三番館があり、日曜日にはよく、百円だったか五十円だったかの子供料金でそこに潜り込み、東宝の怪獣ものだの東映の忍者ものだのの本立で小半日を過ごしたものである。

ぎいと軋るスウィング・ドアを押し開けて、暗がりの中に恐る恐る足を踏み入れる。目が慣れない最初のうちは何が何だかわからない。ただ、闇からくつきりと区別された四角い縁取りの中に光輝く別世界が広がって、それはまるで⑤異次元空間に向かつて開け放たれた窓のようだ。古ぼけた場末の映画館だから備え付けの椅子も固い合板一枚で、決して座り心地がいいわけではない。しかし、ひとたびそこに腰を落ち着けるや、暗闇に身を潜め何本もの映画を見つづけてだらしなく時間を潰すのは何ものにも替えがたい快樂だった。

よくよく思い出してみればどんな大人も身に覚えがあるうが、子供の世界には子供の世界なりに大変なことがある。家庭にも学校にも屈託があり、緊張があり、不安があつて、⑥途方に暮れてしまう厄介事に事欠かない。子供の悩みは大人のそれとは異なつて、解決へ向けて自分から主体的に行動を起こすことを最初から禁じられている場合が多い。⑦その無力感が屈託をいよいよ深くする。映画館の暗闇は、そういうすべてをとりあえず宙に吊り、現実界の心労をいつとき遮断し外に締め出して、⑧閉ざされてあることの完全な幸福を作り出してくれる恩寵の時空にほかならなかった。暗闇の中で自分の存在が

無になって、ただイメージや音響の推移の快樂だけに身を委ねていけばよいということ。その安息は、こんなにぎすぎすした、ぎざぎざした、さらさらした現実世界に生まれ出てくる以前の、完璧に保護された母胎の内部へ戻ってゆくかのような幻想を享受しうるひとときだったのかもしれない。

それはもちろんやや^⑥後ろめたい快樂である。べつだん不良の溜まり場というわけではなかったが、映画館が一種の「悪所」だという意識はあった。昼日中からそんなところにしげ込んで精神的に退行し、現実から逃避して良い気持ちになっているということ自体、何やら後ろ暗い悪習に耽^{ふけ}っていると感じずにはいられなかったものだ。日曜日だから大目に見てくれたのだろうが、うちの裏の映画館(「新東京」という名前だった)は、窓口で「子供一枚」と言っただけで切符を買って同伴者のいない小学生が一人で入場するのを、よくもまあ許してくれたものである。今のように肌理^{きり}細かな制度や法が社会の隅々まで貫徹しているといった息苦しさのない、あちこち隙間だらけの、まあ一事が万事、のんびりした時代だったのだ。映画館自体も、たとえば碁会所とか将棋道場のように地域共同体の中に溶け込んでいて、顔見知りの近所の人たちの集まる社交場といった性格も備えた娯楽施設だったのだろう。

今の小学生の場合、盛り場まで出かけてロードショー館に一人で入るなどということはまずほとんどありえない。やはり家に閉じ籠^{こも}もってテレビ画面を見つめながら、コントローラーをピコピコ動かしているといったことになるのだろうか。それとも、さらにもっと小さな画面、てのひらの中の携帯電話の画面に点滅する記号との間に、何やら密かな対話を交わすことに没頭しているのだろうか。せせこましすぎて、^⑦何だか可哀そうな感じがする。日本全体が貧しかったあの時代にわたしの味わっていたいじましい愉^{たの}しみを特権視するのも滑稽^{こっけい}だけれど、あの暗闇と反射光の戯れは、無力感にうちひしがれることの多かった小学生の心と軀^{からだ}に、深く大きな癒やしと解放をもたらしてくれたと今しきりに思い出されてならない。^⑧歳月が記憶に当然施す美化の働きを割り引いたとしても、である。

そんな原体験があるからだろうか、映画を見るのはわたしにとって、今でもなおどこか幼児的な快樂である。映画館の暗闇によっては癒やしような厄介なしがらみを沢山抱え込んだ五十男になってしまったわたしには、もはや、子どもの頃のように **A** をあげて、無我夢中でスクリーンに没頭するといった **B** の映画体験を味わうことは難しい。それでも、映画はやはり面白い。一本一本の作品の内容もさることながら、暗闇の中にひととき身を紛れ込ませ、 **C** 「**C**」という匿名者と化して映像と音響の奔流の中をひととき泳ぎ、またさりげない顔つきを取り繕って外の雑踏の中に戻ってゆくという体験が面白いのだ。

(松浦寿輝「暗闇と反射光」)

問一 傍線部①「絶対的な必要条件」とありますが、これは何を指していますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。〔解答番号は1〕

- a 映写機
- b 観客の瞳
- c 反射光
- d 映画館の暗闇
- e 作品享受の体験

問二 傍線部②「一心不乱」の類義語は何ですか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。〔解答番号は2〕

- a 一気呵成
- b 無我夢中
- c 前後不覚
- d 終始一貫
- e 電光石火

問三 傍線部③「同じ理由」とありますが、これはどういう理由ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。〔解答番号は3〕

- a 暗闇の有る無し、という理由
- b 反射光である、という理由
- c 気持ち弛む、という理由
- d 直接に光が発する、という理由
- e 周囲が明るいまま、という理由

問四 傍線部④「特殊事情」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。〔解答番号は4〕

- a 沢山の映画館があつて小学生が一人で入場できる時代であり、映画が何ものにも替えがたい快樂であつたこと。
- b 古ぼけた場末の映画館で固い椅子に座り、東宝の怪獣ものや東映の忍者ものの映画を一日中見て過ごしたこと。
- c 子供には、家庭にも学校にも屈託があり、それを忘れるためには映画館の暗闇の中で過ごすしかなかったこと。
- d 日本全体が貧しく無力感にうちひしがれることが多かつた時代だが、全てがのんびりした時代でもあつたこと。
- e 暗闇の中に入り込み、夢中でスクリーンに没頭して自分を忘れても、またさりげなく普通の日常に戻れること。

問五 傍線部⑤「異次元空間に向かって開け放たれた窓」とありますが、これは何を表していますか。その説明として適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

〔解答番号は5〕

- a 映像の戯れ
- b 絢爛豪華な映像
- c 光り輝く別世界
- d 母胎の内部
- e 反射光の戯れ

問六 傍線部⑥「途方に暮れてしまう」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。「解答番号は6」

- a あきあきする
- b 別れる
- c 困る
- d 嫌がる
- e 疲れる

問七 傍線部⑦「その無力感が屈託をいよいよ深くする」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。「解答番号は7」

- a 自分の失敗は自分のせいではないと、あきらめざるをえないこと。
- b 自分の無能さにすっかり愛想が付き、恨みがますます激しくなること。
- c 自分自身で何もできないことが、強く気にかかってくよくよすること。
- d 子供たちの限界を超えた悲しみが、ひしひしと胸に迫ってくる。
- e やる気のないむなししい状態が続き過ぎたため、ひどく疲れて飽きる。

問八 傍線部⑧「閉ざされてあることの完全な幸福を作り出してくれる恩寵の時空」とありますが、これは何を指していますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。「解答番号は8」

- a 子供の世界
- b 子供の悩み
- c 現実界の心労
- d 映画館の暗闇
- e 自分の存在

問九 傍線部⑨「後ろめたい快樂」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。「解答番号は9」

- a 不良の溜まり場での快樂
- b 悪習に耽っている快樂
- c 小学生が味わう快樂
- d 社交場での快樂
- e 隙間だらけの快樂

問十 傍線部⑩「何だか可哀そうな感じがする」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。「解答番号は10」

- a 今の小学生が、家で小さな画面に没頭することに同情していること。
- b 貧しい時代に生きる子供たちの遊びを、いじましく思っていること。
- c テレビ画面や携帯電話の画面が、せせこましすぎてあきれていること。
- d 自分の子供時代がいかに恵まれていたかを、逆に自慢していること。
- e 恵まれた子供たちがなぜみじめなことをするのか、悲しんでいること。

問十一 傍線部⑩「歳月が記憶に当然施す美化の働き」とありますが、これはどういう意味ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

〔解答番号は11〕

- a 時が流れると、つまらない記憶であればあるほど美しい記憶へと変化すること。
- b 時間という客観的な距離をおくと、物事の醜い姿が明らかになってしまうこと。
- c 時間は存在そのものの正体を示すから、ありのままの様子があらわになること。
- d 時間は過去のあいまいな記憶を打ち消し、新たな記憶へと作り変えてしまうこと。
- e 時間が経つと記憶が薄れ、過去を自分に都合のいいように美しく変化させること。

問十二 空欄A・Bに入る四字熟語として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。〔Aは解答番号は12、Bは解答番号は13〕

- a 喜色満面 b 天真爛漫
- c 純粹無垢 d 徹頭徹尾
- e 全身全霊

問十三 空欄Cに入る語句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

〔解答番号は14〕

- a 特別なある人 b 誰でもよい誰か
- c よく知られた人 d なんでもない無用の人
- e 異名をとる名乗る人

問十四 空欄※に入る語句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

〔解答番号は15〕

- a だから b しかし c つまり
- d そして e ところで

二 次の①～⑥の傍線部のカタカナ部分と同じ漢字を使用するものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① われわれの眼をアザムく。〔解答番号は16〕
- a キョギの申請をする。 b ギタイ語を多用する。
c ギシン暗鬼の念を抱く。 d 悪質なサギ行為。
e ギフンに駆られる。
- ② 誰もアラガうことはできない。〔解答番号は17〕
- a 親にハンコウする。 b 事件のハイケイを調査する。
c 議案をヒケツする。 d 川がギャクリユウする。
e ヒジョウ口から避難する。
- ③ 全国をアン脚する。〔解答番号は18〕
- a 映画のコウギョウ収入。 b シュショウが会談に臨む。
c いいアンばいに晴れてきた。 d この寺はヘイアン時代に建てられた。
e 学問の奥義をキワめた。
- ④ 遠慮エシヤクもないやり方だ。〔解答番号は19〕
- a このエガラが気に入った。 b 修行で真理をエトクする。
c エモノを待ち伏せる。 d 新しい教祖にキエする。
e まんまとエジキになった。
- ⑤ 含チクに富んだ人物だ。〔解答番号は20〕
- a 家をカイチクする。 b 敵をクチクする。
c チクサン業を営む。 d 経験をチクセキする。
e ハチクの勢いで勝ち上がる。

三 次の①～⑩の熟語の構成として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度用いても構いません。

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 殉難〔解答番号は21〕 | ② 衆寡〔解答番号は22〕 |
| ③ 無窮〔解答番号は23〕 | ④ 枯渴〔解答番号は24〕 |
| ⑤ 謹呈〔解答番号は25〕 | ⑥ 僅差〔解答番号は26〕 |
| ⑦ 贈答〔解答番号は27〕 | ⑧ 罷業〔解答番号は28〕 |
| ⑨ 核心〔解答番号は29〕 | ⑩ 妄想〔解答番号は30〕 |

- a 同じような意味の漢字を重ねたもの。
b 反対または対応の意味を表す漢字を重ねたもの。
c 上の字が下の字を修飾しているもの。
d 下の字が上の字の目的語・補語となっているもの。
e 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。

四 次の①～⑤の作品の著者として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | |
|----------------|---------------|
| ① 山月記〔解答番号は31〕 | ② 道程〔解答番号は32〕 |
| ③ 邪宗門〔解答番号は33〕 | ④ 青猫〔解答番号は34〕 |
| ⑤ 檸檬〔解答番号は35〕 | |
-
- | |
|---------|
| a 高村光太郎 |
| b 萩原朔太郎 |
| c 北原白秋 |
| d 中島敦 |
| e 梶井基次郎 |

五 次の①～⑤の傍線部の活用の種類として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度用いても構いません。

- ① 私はそんなことはしてません。〔解答番号は36〕
- ② そこにあつた写真は私の物です。〔解答番号は37〕
- ③ 運動しないと病気になるよ。〔解答番号は38〕
- ④ 本をしっかり並べろ。〔解答番号は39〕
- ⑤ 早く寝ないと朝しっかりと起きられません。〔解答番号40〕

- a 五段活用
- b 上一段活用
- c 下一段活用
- d サ行変格活用
- e カ行変格活用

六 次の①～⑤の四字熟語の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 忙中有閑〔解答番号は41〕 ② 百人煩惱〔解答番号は42〕
 - ③ 英俊豪傑〔解答番号は43〕 ④ 円転滑脱〔解答番号は44〕
 - ⑤ 一陽来復〔解答番号は45〕
- a 悪いことが続いたあと良い方向に向かうこと。
 - b 人並みはずれて優れた人。
 - c 人間に迷いを生じさせる心の働き。
 - d 仕事に追われていても一息つく時間があること。
 - e ものごとが滞りなく進むこと。

七 次の①～⑤の語句の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① アイロニー 「解答番号は46」
- ② アフォリズム 「解答番号は47」
- ③ コントラスト 「解答番号は48」
- ④ パラドックス 「解答番号は49」
- ⑤ タブー 「解答番号は50」

- a 警句。金言。
- b 逆説。背理。
- c 皮肉。風刺。
- d 禁忌。
- e 対照。対比。